

時枋報幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第118号

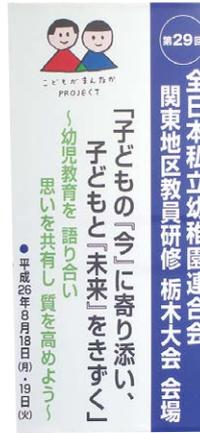
平成26年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階
 ☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
 ●編集人／宇南山 照元 ●発行人／石嶋 勇
 ■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



全日本私立幼稚園連合会
 関東地区教員研修栃木大会
 宇都宮で開催



平成二十六年八月十八日(月)、十九日(火)の両日、財団法人私学研修福祉会の主催により、全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修栃木大会が、宇都宮で開催された。

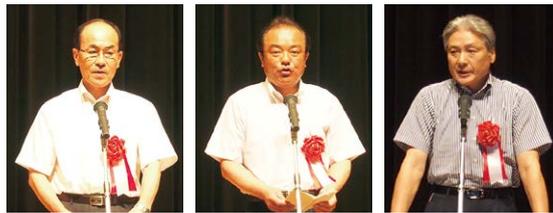
大会テーマに『子どもの「今」に寄り添い、子どもと「未来」をきずく』を掲げ、幼児教育を語り合い、思いを共有し、質を高めようのサブテーマのもと、一日目は栃木県総合文化センターメインホールを会場に、開会式と全体会、二日目は宇都宮市内の四つの会場と、益子町の陶芸の地域を会場に十六のフォーラムが実施された。

今回で二十九回目となるこの研修会には、県内はもとより、茨城、

群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨から、合計千二百二十八名の教員が参加した。

全参加者が一堂に会した開会式には、福田富一栃木県知事をはじめ、螺良昭人栃木県議会議長、高井徹宇都宮市副市長、古澤利通教育長、金田繁夫文書学事課長、田淵光与栃木県幼児教育センター長ら、多数のご来賓が出席され盛大に挙行された。

石川均副理事長の「宇都宮へようこそ」の第一声で幕を開けた開会式は、国歌斉唱に続いて、全日本私立幼稚園連合会を代表して香川敬会長からのあいさつ「ラッソ幼児教育を磨き上げる時、そしてよりよい教育課程・指導計画を磨き上げる時である。この研修に参加の先生方が多い研究結果をあげて、幼児教育の重要性を社会に発信してほしい」、同関東地区会原徳明会長のあいさつ「新制度の先を見据えるべき今だからこそ、幼児教育の質を充実すべき」と続いた。



また、今回の栃木大会会長を務めた石嶋勇幼連理事長は「ご参

会の先生方がより研修を深めること、またコンパクトな大会にとのコンセプトから参加対象を制限させていただいた」と説明を加えた上で、大会テーマ『子どもの「今」に寄り添い、子どもと「未来」をきずく』



東日本大震災への義捐金
 ご協力ありがとうございました
 総額 156,665円

義捐金御礼

八月十八日、全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修栃木大会の折に「東日本大震災」のご協力をお願いしましたところ、十五万六千六百六十五円の善意が寄せられました。皆様からお預かりしました義捐金は、全額、公益社団法人福島県私立幼稚園連合会へ皆様のお気持ちと共に送らせていただきました。

ご協力下さいましたこと、心より御礼申し上げますとともにご報告させていただきます。



に込めた思いを歓迎のことばとして語った。

その後、これらのあいさつを受けて、ご来賓の方を代表して、三名の方からご祝辞をいただいた。

まず始めに福田知事からは「幼児教育の『質』の観点から様々なフォーラムにおいて研究議論を重ねることは大変意義深い。子どもの社会性を育てるためにも、ぜひがんばってほしい。」との言葉、螺良県議会議長からは、宇都宮市のキャッチフレーズや栃木県の良いところを畳み掛けてご案内いただいた上で、「今回の研修がより子どもたちの成長に活かされることを期待する」、高井徹宇都宮市副市長からも、宇都宮市の子育てサロン等の取り組みが紹介され、「皆が手を携えて子育て・子育て支援に取り組んでいこう」とのお言葉を頂戴した。



ここで改めて、船田弘和栃幼連副理事長により来賓紹介をさせていただき、その後、永年勤続者表彰に移った。

今回受賞したのは、設置者・園長の部五十年以上勤続九名、四十

年以上勤続十五名、三十年以上勤続十五名、二十年以上勤続九名、教職員の部五十年以上勤続八名、四十年以上勤続八名、三十年以上勤続三十八名、二十年以上勤続百五名である。代表して

栃木県宇都宮市のめぐみ幼稚園副園長中臣浩子先生が壇上に登り、五十年以上勤続表彰を受け、大きな拍手が贈られた。

続いて、昨年度群馬大会会長を務められた原徳明群馬県私立幼稚園協会会長に対し、感謝状が贈呈された。



さらに来年度の茨城大会を担当する橋本幸雄茨城県私立幼稚園連合会会長から、会場となる「つくば市II旧学園都市とその周辺」についてのPR、茨城大会への参加を促すあいさつがあった。

最後に、輪王寺附属日光幼稚園長根村隆宣先生の指揮、すみれ幼稚園園長岡本純世先生の伴奏により、会場全員で「幼稚園讃歌」を斉唱し、栃幼連中川祐慈副理事長の閉式のことばで開会式の幕を閉じた。



式の幕を閉じた。

基調講演

テーマ

「子どもの目が輝くとき
—ほんもの文化と出会うこと、人と深く触れ合うこと—」

講師

白梅学園大学 学長 汐見 稔幸氏



「ほんもの文化と出会うこと」とは、子どもがもつ「どうして?」「何で?」という興味やワクワクした感情を、みんなと一緒に手間暇かけて、楽しみながら、より良い、形ある科学や芸術に変えて見えるものにしていくことである、と、ユーモアを交えながら笑顔で語る汐見氏。文化と出会った子どもが面白さを感じ、感動し、さらに自分でもっと発展させようと、興味や試行錯誤を膨らませていくとき、子どもはキラキラと目を輝かせる、と、聞きながら目を輝かせている子どもたちの顔が思い浮かぶような、わかりやすく説得力のある講演だった。

現代の社会や家庭環境の中で、義務教育就学前の生きる土台

作りの場が地域や大家族ではなく幼稚園や核家族などになっており、子どもの目を輝かせるためには我々幼稚園が親も支えなくてはいけないのが現実である、と話された。幼稚園が家庭支援に本気になることは、現在、そしてこれからも必要不可欠であり、子どもと一緒に育つことの喜びを、職員だけでなく親とも共感できることが、園に求められているのだと強く感じた。

日本の教育は固く、平等性を保ってきたけれど、地域性や特性を子どもたちに伝えていくのも大切なこと。環境問題や少子高齢化など解決できない問題に直面しているのに、人任せで真剣に考えていない日本人が多い、と汐見氏は指摘した。これからの日本をつくりあげていく人材である子どもたちを育てている我々は、「直面している問題を真面目に考える人間」を、「勝ち負けでなく、多様な価値観が面白いと感じる人間」を、そして「支え合う社会や作り出す社会を担っていきける人間」を、「夢をもって生きていける人間」を育てていくことが使命なんだと、痛切に感じる内容だった。

私たちがやるべきことは、まず、子どもが学べる環境を整えること。たくさん経験を準備し、簡

子どもの発達と保育の実践 (参加者56名)

- 外部ゲスト 梅田 優子 (新潟県立大学・准教授)
 内部ゲスト 高橋 茂吉 (認定こども園明美ヶ丘幼稚園・園長)
 コーディネーター 中村 寛 (愛泉幼稚園・園長)



参加者の声

直接体験の大切さとともに、そのために保育者自身が体験すること、より子どもが興味を持てる活動の選択が重要であることが分かった。様々な体験活動を通じて、子どもたちに伝え、心にひびく保育を心がけ、常に喜びや驚きを共感できる保育者でありたい。

第3フォーラム

幼児期にふさわしい生活や関係を育てる保育と記録 (参加者65名)

- 外部ゲスト 太田 光洋 (和洋女子大学・教授)
 内部ゲスト 高倉 幸世 (コスモス幼稚園・園長)
 コーディネーター 平岡 立行 (佐倉くるみ幼稚園・園長)



参加者の声

保育記録が、よりよい保育実践のために大切だということ事を再確認した。他園での活用の仕方などの情報交換が出来、勉強になった。どのように子どもや保育を捉えながら保育の記録をとり、それをもとに振り返り、育ちを読み取り、保育につなげていくかを学んだ。

第4フォーラム

特別支援教育における保護者とのかかわりと連携 (参加者65名)

- 外部ゲスト 石田 隆雄 (茨城キリスト教大学・教授)
 内部ゲスト 木村 直文 (石岡幼稚園・園長)
 コーディネーター 糸賀 昌子 (新学幼稚園・主任)



参加者の声

話題提起されたお二人の事例を大変興味深く聞くことができ、外部機関との連携の重要性と、保護者との信頼関係の構築、そしてその手段と必要性がわかった。今後は支援を受け入れていくために、専門的な知識を身につけていかなければならないと感じた。

第5フォーラム

幼児の育ちを支える環境の構成 (参加者81名)

- 外部ゲスト 秋山 麻実 (山梨大学・准教授)
 内部ゲスト 鷹野 秀樹 (青葉幼稚園・園長)
 コーディネーター 浅野 聖子 (山梨英和幼稚園・副園長)



参加者の声

環境の重要性を改めて感じ、保育者の考えで環境構成も無限に広がる事を学びました。子どもたちが「やりたい」「楽しい」と感じていけるような活動を広げて行きたいが、子どもの望む活動をやるだけではなく、活動の意味をよく考えた上で行うべきだと学んだ。

第6フォーラム

第29回 全日本私立幼稚園連合会 2日目 関東地区教員研修栃木大会

| 区分 | 話題提起者 |
|---------|---|
| 一般フォーラム | 1 遠藤 祐子 (藤塚幼稚園・教諭) 北畠 咲子 (岩槻ひまわり幼稚園・教諭) |
| | 2 依田菜穂子 (岩崎学園附属幼稚園・主任) 松本 由美 (田浦幼稚園・教諭) |
| | 3 渡邊真喜子 (糸魚川カトリック天使幼稚園・主任) 渡邊 佳織 (見附天使幼稚園・教諭) |
| | 4 櫻田 千晶 (慈光幼稚園・教諭) 岡本 奈々 (みもみ幼稚園・教諭) |
| | 5 岡村 優子 (ひたち学院幼稚園・主任) 遠藤 光江 (ひたち野牛久幼稚園・主任) |
| | 6 佐野 実香 (慶明幼稚園・教諭) 長谷部美穂 (みだい幼稚園・教諭) |
| | 7 南 了太 (明和幼稚園・教諭) 生井 祐紀 (まきば幼稚園・教諭) |
| 特別フォーラム | 13 パネラー 植木 好子 (釜井台幼稚園・学年主任) 高久真理子 (東光寺幼稚園・教諭) 和久井千鶴 (ひかり幼稚園・教諭) |
| | 15 嶋村 佳子 (栃木幼稚園・教諭) 神山 稚代 (若葉幼稚園・教諭) |

「参加者の声」はアンケートのなかで「フォーラムに参加し何を学んだか、また、日常の保育にどのようにして役立てたいか」を抜粋したものである。

幼児が心身ともに育つ保育とは (参加者61名)

- 外部ゲスト 田澤 里喜 (玉川大学・准教授)
 内部ゲスト 井ノ上 實 (ルネサンス呑竜幼稚園・園長)
 コーディネーター 梅澤 眞理 (わかほ幼稚園・園長)



参加者の声

良いところを探して言葉にするのではなく、その子の存在価値を認め愛情を持って関わること、「保育者の都合の良い考え方・捉え方をしない。」という言葉が胸にさざった。細かく記録し、他の先生とも話し合いながら、子ども達同士が気持ちを理解し合える、きっかけにしたい。

第1フォーラム

幼児自らが学ぶための保育者の役割 (参加者90名)

- 外部ゲスト 佐藤 康富 (鎌倉女子大学短期大学部・教授)
 内部ゲスト 山田 昇 (浜竹幼稚園・副園長)
 コーディネーター 水越 美果 (横浜隼人幼稚園・園長)



参加者の声

保育を振り返りながら話し合い、共通理解をしながら子どもが主体の保育できるようにしなければならない。そのようにするためには手問ひまかけて環境づくりをする必要がある。

第2フォーラム

子どもの造形表現を生みだすもの(参加者74名)

外部ゲスト 鮫島 良一 (鶴見大学短期大学部・専任講師
明福寺ルンビニー学園・造形講師)
コーディネーター 大中 清見 (法得幼稚園・園長)



参加者の声

どちらかと言えば保育者の思いが先行した活動になってしまうので、子どもたち自身が考えたり楽しんだりする部分を大切にしたい。子どもの表現の魅力に気づくよう、まず自分の感性を日々の保育を通して磨いていきたいと思った。

第12フォーラム

地域・家庭支援・保護者とのかかわり(参加者45名)

外部ゲスト 柴崎 正行 (大妻女子大学・教授)
内部ゲスト 白石由紀子 (共愛学園幼稚園・園長)
コーディネーター 榎淵 洋介 (ちぐさ幼稚園・園長)



参加者の声

幼稚園と教職員が色々な事で共通理解をし、保護者の不安や不満を少なくするために、保育者同士の話し合いが必要であることを改めて学んだ。地域に根ざした子育てセンターとして大事な役割が果たせる一人でありたいと感じた。

第7フォーラム

保育者へのエール講座(参加者46名)

外部ゲスト 神長美津子 (國學院大学・教授)
コーディネーター 栗田 英子 (黒羽幼稚園・園長)



参加者の声

同じ悩みを持った沢山の先生と意見を交わらせ、抱えていた悩みやプレッシャーを解くことができた。一人でなく、園内で考えていくことが自分の心身に負担を与えず、繋がりが保育にも関わってくる。連携をより充実させ「チーム保育」を大切にしていきたい。

第13フォーラム

今だからこそ保育の質を問う(参加者65名)

外部ゲスト 無藤 隆 (白梅学園大学・教授)
安達 譲 (せりびじり幼稚園・園長 全日私幼連・教育研究委員)
コーディネーター 小林 研介 (吞竜幼稚園・園長)



参加者の声

新制度のことも視野に入れつつ、質の向上を考える学びとなった。保育者のみならず保護者も巻き込んで質の向上をはかる事例を学べた。また、保育の見直し、保育の評価は、一般教員だけでなく園長含めた園全体で取り組むべき内容であるとの学びを得た。

第8フォーラム

今なにを子どもに? どんな保育を? どんな環境を? ~自園の特色や方針を活かす保育の作り方~(参加者37名)

外部ゲスト 亀ヶ谷忠宏 (宮前幼稚園・園長)
内部ゲスト 稲毛久美子 (真岡杉の子幼稚園・副園長)
コーディネーター 上野 和彦 (にのみや幼稚園・園長)



参加者の声

写真を使って子どもたちがどんな事に楽しさを感じているのかがわかりやすく、繰り返して行われている保育がいかに大切かを知った。保育者主体の保育が多い中、アイデア一つで子どもたちは遊びが広がることを学んだ。今までの保育の反省にもなり大変勉強になり感謝している。

第14フォーラム

新制度施行を前に私幼の現場で対応しなければならないこと(参加者153名)

外部ゲスト 吉田 正幸 (保育システム研究所・代表取締役)
柿沼平太郎 (認定こども園こどもむら・園長)
コーディネーター 中山 昌樹 (認定こども園あかみ幼稚園・園長)



参加者の声

新制度についての説明を細かくわかりやすく話して頂き、今後の園の考え方や課題が明確になった。特に、すべての子どもたちのために質の高い保育を目指し環境を整えること、保護者との関わりはもちろんだが、幼小連携、地域とのつながりの大切さを再確認した。

第9フォーラム

気になる幼児の理解と支援(参加者91名)

外部ゲスト 上原 芳枝 (特定非営利活動法人 発達支援機関リソースセンターone
代表理事・臨床発達心理士)
内部ゲスト 安藤 紀子 (聖ヨゼフ幼稚園・園長)
コーディネーター 斎藤 佳子 (しずわでら幼稚園・園長)



参加者の声

パニックの原因とその背景について学ぶことができ、貴重な研修だった。今までの自分の対応がかえってストレスになっていたのでは?と気づくこともできた。さりげない支援、一人一人に合った対応を心がけ、保護者の方ともしっかり連携することが大切と感じた。

第15フォーラム

免許状更新講習(参加者42名)

外部ゲスト 石原 栄子 (作新学院大学・教授)
コーディネーター 前田 和子 (友愛幼稚園・園長)



幼稚園における家庭教育支援をテーマに①子どもを取り巻く「今」について②近年の幼児教育に関する施策③変化への認識と幼稚園における対応④成長を続ける家庭・家族⑤家庭教育支援の実践例⑥幼稚園での取り組み(グループ協議)の講義を踏まえ、試験が行われた。

第10フォーラム

陶芸に親しむ(益子焼体験)(参加者78名)

外部ゲスト 濱田 友緒 (公益財団法人 濱田庄司記念益子参考館・館長)
コーディネーター 山崎 英明 (釜井台幼稚園・副園長)
馬場 章信 (たから幼稚園・園長)



参加者の声

美術館を訪ね、益子の歴史・文化に触れ、陶芸の素晴らしいさを改めて知ることが出来た。また、陶芸体験により、モノづくりの楽しさ・喜び・充実感を味わう事の大切さを学んだ。今後、子どもたちの造形活動や遊びに役立つ内容だった。

第16フォーラム

保育に生かすリトミック(参加者68名)

外部ゲスト 山口 晶子 (宇都宮共和国大学・准教授)
コーディネーター 戸室まち子 (晃望台幼稚園・教諭)



参加者の声

- ・親しみのある曲や、身近なものを使ったリトミックだったので早速保育に活かそうと思った。
- ・子どもと過ごす、幼稚園教諭という仕事は素晴らしいという言葉が印象に残りました。
- ・子ども達と音楽を通して心を通わせる楽しさを学ぶ事が出来ました。

第11フォーラム



研修会だより

設置者・園長研修会

期日 平成二十六年六月十二日(木)

会場 二荒山会館(鶴・亀の間)

参加 百八十五名

内容

「子ども子育て支援新制度について」

講師

栃木県 経営管理部

文書学事課 副主幹 古林 正

主査 野中 延寿

栃木県 保健福祉部

こども政策課 副主幹 野口 善幸

メモ

①施設型給付・私学助成を選択する上での留意事項

1 施設型給付を選択した場合

・「特定教育・保育施設及び特定の地域型保育事業の運営に関する基準」に基づいて市町村が定める条例の遵守する必要がある。

・事務量の増加が想定される。

2 私学助成を選択した場合

手続きに変更の見込みはないが、幼稚園運営費補助金に関しては、園児一人当たりの補助単価を維持したとしても、これまでの水準に比べて下がる可能性がある。

②公定価格仮単価について

公定価格の具体的な内容は、各年度の予算編成過程において財源の確保とセツトで検討され、各年度の予算において確定するものである。しかしながら、地方自治体・事業者等の関係者が安心して準備を進め、新制度を円滑に実施するためには、十二月の予算編成を待たず、出来る限り早期に、事業者等に対し、新制度の参入、事業展開に当たつての判断材料となる情報を提供することが必要であるため、公定価格の仮単価を提示する。

公定価格の仮単価は、消費税率の引き上げが行われた場合、平成二十九年度に消費税増収額が万年化し、子ども子育て支援分野に〇.七兆円程度の財源が確保される予定である事を踏まえ、「〇.七兆円の範囲で実施する事項」を基に作成された。しかしその一方で、平成二十七年・二十八年度は、消費税増収額が満年度化する前の年度であり、消費税増収額は



のうち子ども・子育て支援分野に充てられる額は、各年度の予算編成を経て確定するものである事から、平成二十七・二十八年度の単価は、それぞれ平成二十七年・二十八年年度の予算編成時に確定するとのお話をいただいた。

③「私立幼稚園の新制度への移行に関する意向調査の実施について」

現時点における公定価格仮単価等の限られた情報の中ではあるが、新制度実施の準備、事業計画の策定、国の概算要求、予算案の作成などから意向調査をするとのお話があった。また、あくまで調査に過ぎなく、秋ごろに再度調査があるとのお話もあった。

平成二十六年年度 第一回 青年部研修会・全体委員会

期日 平成二十六年六月十三日(金)

会場 ホテルニューイタヤ (地下1F・菊の間)

参加 三十一名

内容

『幼稚園でのサービスを考える時間』

講師

クオリティ・サービス・コンサルタント

松垣 真理子氏

メモ

サービスとは、お客様の体感でありサービスを行った結果お客様がどう思うかということである。サービスは、欠陥がない「不満がない」(ゼロ)のこと、お客様に選ばれる理由がある「期待に応える」(プラス)のどちらかに分けられる。前者はできて当然だが、できないと不満につながるサービスの正確さ、清潔さ、迅速さである。お客様が気付かなければ、それは良いサービスを提供できたということになる。後者はできなくても不満につながる



よってお客様の満足度は変わって行く。また、サービスを支える仕組みは、人、もの、手順、機器、環境が相互に係わり、どれかが欠けても良いサービスが提供できなくなる。リーダーは、方向性を示し、自ら実践し、信頼・支援することが大切であり、それらについて一貫性をもつことが重要である。

幼稚園のサービスは多種多様であり、マニュアル自体つくることのできないことがたくさんある。園の方針と保護者が望むことが一致しないことも多いが、サービスとしての基本的な考え方はどの業種でも同じである。本研修会はお客様（保護者）がどう感じるかを考え直す良い機会となり、各園の発展のための手助けとなることだろう。

第一回 保育テクニカル講座

期日 平成二十六年六月十一日(水)

会場 コンセーレ (大ホール)

内容 「子どもの発達と身の回りの廃材、素材を活かした玩具遊び」

講師 仲田安津子氏

参加 百四十九名

メモ 今年度の第一回講座は、各場内にも空き箱や広告紙がたくさん置いてあり、会場全体のすてきな環

境に、参加者がワクワクドキドキの中で開始された。まず最初に作った物は、空き箱を使ったブローラン。廃材をうまく使ったとても簡単な物で、のりもテープも使わずに空き箱とはさみのみで作れて、大人たちでも楽しめる物が

出来てしまうことが驚きである。引き続きの玩具作りも、「広告紙を使った風船」「画用紙を使った三面箱」などで、特別な材料ではなく身近にある物をうまく使って、簡単に作り上げ、楽しんで遊ぶことが出来る物ばかりで、あっという間に終了となったが、すぐにでも自園の子どもたちとこれらの玩具作りに挑戦したい！と思える程の素敵な時間だった。

また制作をしながらも、遊びを取り入れる際の留意点も仲田先生からしっかりお声かけいただき、よりこの研修参加が有意義なものとなった。「ある活動」に対して材料が思うように集まらなかった場合どうす



るのか?、「いらなくなった紙や新聞紙を破る・丸める・ぐちゃぐちゃにする」ことでも子どもたちは大喜びし、素材を生かした立派な活動だということだった。うっかり決めつけてしまいがちだが、「玩具遊び」決まった形の決まった遊び」ではないということにもなる。もちろん、その「ある活動」をするためには「人数分の十分な材料を確保する必要があり、足りなかったら行つてはいけない!」ともご指導があり、簡単に楽しい活動だからこそその下準備の大切さを実感させられた講座となった。

教頭・主任講座

期日 平成二十六年六月二十八日(土)

会場 二荒山会館 (鶴の間)

参加 六十七名

内容 午前の部「園の現状を理解し、園内研修の課題を探る」

午後の部「園内研修を活用するための手法を学ぶ」

講師 大妻女子大学 岡健氏

メモ 岡健先生を講師に迎え教頭・主任研修会が行われた。はじめに園内研修を進める上で伝達型会議も必要だが、保育者自身が気づく為の創発型会議も必要であると話された。会議を進める際、管理職がファ

シリテーター(促進者)になり、実際の手法を交えてその役割の重要性、園内研修が充実する為の手法(田の字法)を学んだ。

研修や会議をする際に、時間・空間・環境・現在の保育者達の様子(心理)を管理し進めていくことで、充実し且つ明確なものにして職員の間で共通理解が図れることを実感した。

子どもを観る目を育てるランキングという手法は、DVDを使用し、実際の園での映像(写真など)を用いて学んだ。付箋・模造紙を使用し、整理がつき、相手が何を意図とし書いたことなのかを話を聞く事で、研修も充実することを実感し、すぐに実践できるような研修であった。



就職説明会

期日 平成二十六年七月六日(日)
場所 マロニエプラザ大展示場

参加状況
参加園数 百四十七園
参加者数 五百三名参加

参加者内訳
県内学生 四百一名
県外学生 九十五名
一般 七名

栃幼連主催の就職説明会が、今年もマロニエプラザで開催された。

今年で十八回目を迎えたこの会は、幼稚園にとっても学生にとっても大切なものであり、特に今年は多くの参加園・参加者数となった。

県内の幼稚園が集った広い会場を所狭ましと行き交う学生の姿は、熱心さが感じられ幼稚園教諭への夢や希望がみちあふれていた。



第一回保育セオリー講座

期日 平成二十六年七月十日(木)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百五十一名
内容 「新制度を踏まえた中で、カウンセリングマインドを生かした保護者への対応」

講師

氏家幼稚園 園長 小堀 泉先生
(栃木県カウンセリング協会副理事長)

沿って新制度 制定の背景、

幼稚園に求められる役割について理解を深め、保育者は現場でどのように変わっていく必要があるかという講義内容は関心を持って聞くことができた。

ワークショップ

では、保護者への対応をカウンセリングマインドの観点から学んだ。コミュニケーションにおいて話す側が「聞いてもらえた」と感じるのが、共感であることを再認識した。また、チェックリストを使って自分の性格の傾向を知り自覚することは、他者とうまくかわるることにつながるという専門的な技術も、よりよい保育に結びつけていけると思う。

今回の講義を通して、保護者の気持ちに寄り添うことはもちろん、保育者として冷静な対応を心掛けていきたいと感じた。和やかな雰囲気の中、とても分かりやすく有意義な講習だった。



新規採用幼稚園教諭 宿泊研修報告

新採研宿泊研修実行委員長

寺尾 淳 (太陽幼稚園 副園長)



七月二十二日(二十四日の三日間、栃木県立とちぎ海浜自然の家にて、百九十三名の県内幼稚園新規採用教諭宿泊研修が行われた。「幼稚園の保育者にふさわしい①明朗できまりよく行動する生活体験、②豊かな自然体験や、③積極的に社会人としての体験等を積むと共に、幼児教育への理解を深める。」という目的のもと、栃木県幼稚園連合会青年部が実行委員・講師となつて、様々な内容が盛り込まれた三日間だった。

まず、グループワークトレーニングでアイスブレイクしてから、外部講師のちとせ氏を招いた「印象戦略セミナー」で相手に好印象に見せるコツを知り、さらに、仕事に目標を立てるため「クレド作り」をしたり、団結力を高めるためグループで「手遊び作り」



をしたり、と、決められた活動時間以外も有効に、交流や協力、話し合いや思いやりの気持ちや育つ機会となつていた。食事や入浴、就寝もグループで行動するため、仕事一年目という同じ境遇も重なり、仲間意識はさらに強まった。

日中は、研修生の希望で六つの選択活動に分かれ、即実践に活かせる歌や制作、ゲームなど、様々な遊びを学んだ。そして、夕食後には八つの任意活動に希望で参加し、リラククスしながら学んで気分転換ができる時間を過ごした。本人の意欲次第で、宿泊研修で学べることはとても多く、研修生、実行委員共に、貴重で充実した三日間になっただろう。



幼児教育センターだより

新規採用幼稚園教諭研修 第三日

七月十六日に、新規採用幼稚園教諭研修第三日を開催しました。



午前中は、全体会で「幼児理解」をテーマに講話を行いました。受講者は、幼児理解は「保育の出発点」であり、幼児理解によって保育の方針が異なるということを、ビデオ演習を通して学びました。

午後は、分科会でグループに分かれて、演習を行いました。三歳児と五歳児の保育のビデオを視聴した後、視線や表情に表れる幼児の思いや、発達に応じた教師の援助に視点を当て、協議しました。



受講者からは、「幼児の行動には、必ず理由があることが分かった。」「幼児理解、発達の課題、具体的な援助という三つのステップを知ることができた。明日から、この視点をもって幼児に関わってみよう。」「三歳児の学びが、五歳児の学びにどのようにつながっていくかを見通して保育をすることが大切だと思った。」「など、幼児の見方や自分の保育を振り返り、変えてみよう、挑戦してみよう」という前向きな感想が多く寄せられました。

分科会のまとめでは、各地区から推薦された指導助言者から、適切なアドバイスがあり、受講者はさらに幼児理解を深めることができました。



六月二十五日に、保育・教育課程研究セミナーの第一日を開催しました。この研修は、「幼稚園教育理解推進事業」（文部科学省主催）の都道府県協議会に該当するもので、幼児期の学校教育の質の保証を目的としています。今年度、栃木県は「言葉」「特別支援教育」「幼稚園における学校評価」の三つの協議主題が割当てなっています。

保育・教育課程研究セミナー

午前中に、十文字学園女子大学の宮里暁美教授より、協議主題の解説がありました。小学校以降の生活や学習の基盤につながる幼稚園教育の観点から、日常の保育の中で、具体的な幼児の姿を捉え、指導の在り方を考えるよう助言していただきました。また、特別支援教育や学校評価など、幼稚園教育における今日の課題についても、ご自身の経験を踏まえて、分かりやすく解説していただきました。午後は、



協議主題ごとの分科会で、協議や演習を通して、さらに主題の理解を深めました。その中で、一人一人が自分の園の現状や課題を振り返り、研究の方向性を決めました。

七月二十八日、「組織力を高めよう」職場における人材育成」の研修にアドバイザーとして参加しました。



第二日の八月二十七日には、それぞれの研究の成果を持ち寄って、さらに協議を深め、主題にせまることができました。

那須地区幼稚園主任研修会

七月二十八日、「組織力を高めよう」職場における人材育成」の研修にアドバイザーとして参加しました。

- ① 園内研修のすすめ
(PDCAサイクルを生かした教育課程の工夫・改善や保育実践等の在り方)
- ② 校内研修の実際
(同僚性を発揮した授業研究会の手法や成果の紹介)
- ③ 演習「人材育成」若い力、どう生かす？」
(付箋を活用したワークショップ型協議)
- ④ 園内研修の効果
(一人一人の向上と組織力の高まり等)

付箋を活用したワークショップ型の演習では、立場や経験年数等関係なく、皆、同じポジションで考えを出し合い、共感しながら、テーマに



園の要となる主任の先生方が中心となり一人一人のよさを生かした人材育成を進めることで、園全体の組織力の高まりにつながることを確認しました。

これからの研修

●スキルアップセミナー

十月十六日(木)

《保育に生かせる表現運動》

講話「子どもの遊びと体力」

岐阜大学教育学部

准教授 春日晃章先生

講話「幼児期の体づくり」

実技「幼稚園・保育所のできる運動遊び」

宇都宮共和国大学教授

河田 隆先生

●スキルアップセミナーII

二月九日(月)

《発達と学びをつなぐ要録の作成と活用》

講話「要録の意義と役割」

十文字学園女子大学児童幼児教育学科

准教授 野口隆子先生

講話・演習

「発達と学びをつなぐ要録の作成」

★幼児教育センター研修案内にて、お申し込みください！

園の要となる主任の先生方が中心となり一人一人のよさを生かした人材育成を進めることで、園全体の組織力の高まりにつながることを確認しました。



学事だより

県文書学事課

平成二十六年幼稚園財務 関係調査の実施について

七月から標記調査を対象の幼稚園において実施しています。調査内容は次のとおりです。

- ・学校法人の管理運営状況
 - ・幼稚園の管理運営状況
 - ・会計処理状況 等
- 実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いいたします。

また、今年度、調査対象外の幼稚園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いいたします。

なお、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出されるようお願いいたします。

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書

- ・提出期限 十一月上旬(予定)
- ・平成二十六年幼稚園運営費補助金(一般補助分)の内定については、十月末頃を予定しています。交付申請書の提出にあたっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書

- ・提出期限 十月下旬(予定)
- 幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金(特別補助分) 関係書類

一 特別支援教育

提出書類

- ア 対象園児就園状況調査書
- イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書

ウ 対象園児である旨の判定調査書

- ・提出期限 十月二十四日(金)
- ※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

二 子育てランド事業

提出書類

- ア 子育てランド事業実施計画書
- イ 各事業における保護者等への案内通知(写)

提出期限 十一月上旬(予定)

三 わんぱく保育推進事業

提出書類

- ア わんぱく保育推進事業実施計画書

イ 預かり保育実施記録

- ウ 保護者等への案内通知(写)
- ・提出期限 十一月中旬(予定)

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十六年

十月～十二月までの事業予定

| | |
|-------------------|----------------------------|
| 10月11日 ～10月25日 | 第21回 ピカヒカの栃木県 |
| 10月16日 | ※ スキルアップセミナー |
| 10月17日 | 保育セオリー講座 |
| 10月20～21日 | 第30回 全日私幼連 |
| 10月24日 | 設置者・園長全国研修大会(香川) |
| 10月25日 | 幼稚園教育振興の集い(宇都宮市) |
| 10月31日 | 資質向上選抜養成講座X |
| 11月4日 | 保育テクニカル講座 |
| 11月5日 | 資質向上選抜養成講座X |
| 11月6～7日 | ※10年経験者研修 |
| 11月7日 | 舎私幼連関東地区代表者協議会新潟 |
| 11月7日 | 第43回 関東申信越放送視聴覚教育研究大会 栃木大会 |
| 11月7日 | ※特別支援教育研修 |
| 11月8日 | とちぎ教育振興大会 |
| 11月15日 | 公開保育研究会(宇大附属幼稚園) |
| 11月26日 | 設置者・園長研修会 |
| 12月1日 | ※調査研究委員会 |
| 12月17日 | 保育セオリー講座 |
| 12月25日 | 新規採用幼稚園教諭研修(集合研修) |
| | ※は幼児教育センター事業 |

慶事

●高ノ台幼稚園 新園舎 竣工式
平成二十六年六月二十二日

●認定うつのみやこども園
石川幼稚園 新園舎 竣工式
平成二十六年八月二十三日

●八幡台幼稚園 新園舎 竣工式
平成二十六年九月六日

編集後記

八年ぶりに関東地区教員研修栃木大会が行われ大成功に終わった。大きな大会はとも準備が大変である。執行部始め大会準備をお手伝いして頂いた全ての皆様に感謝を申し上げます。

規模が違うが柘幼時報を発行するにあたり、広報委員会や各幼稚園の先生方には時間のない中での執筆をこころよく受け入れて頂き、大変嬉しく思っています。私自身も関わることができても感謝しています。

この一八号は、冒頭で話をした関東地区教員研修栃木大会を中心に研修会やイベントについて記載している。この柘幼時報をみれば栃木県幼稚園連合会の活動内容がわかるようになっていく。

以前の柘幼時報を見たい時には柘幼連のホームページ↓連合会とは？をクリックすれば100から116号まで閲覧することができるので確認して頂きたい。

平成二十七年四月より、いよいよ認定こども園が動き出す。現在は、栃木県内の市町で保護者や先生達への説明会が開かれている事だろう。

各園での準備も大変だが栃木県幼稚園連合会も同時進行で準備をしている。これからのように教育・保育が進んでいくのだろうか。今後に期待して編集後記とする。

(齋藤達成)